

区民協議会施設見学研修報告

(意外と知らない横浜市内の重要施設)

平成29年2月9日(木)、区民協議会第 19 期のメンバーは自己の見識を高めようと、横浜市内にある「JX エネルギー(株)根岸製油所」、「横浜地方気象台」、「神奈川県警察本部」の3ヶ所を訪問しました。以下は各施設の概要と感想です。

JX エネルギー(株)根岸製油所

創建時は日本石油精製(株)根岸製油所という名称だった工場です。磯子区の JR 根岸駅から本牧迄の海面埋立地に広がる巨大な石油コンビナートです。その敷地、約22km²、何と我が神奈川区の面積約24km²に迫る広さ。

敷地内は巨大な貯留タンク(最大のもの直径80m、高さ23mの円柱状)群と蒸留塔、精製塔、脱硫塔や様々な装置の林立で壮大。原油の貯蔵量は16基のタンクに約100万トン。10万~30万トン級のタンカーで、主に中東から3日に一度位のペースで運び込まれるそうです。その他精製したガソリンや灯油、重油、ナフサ、LPガス等の貯蔵を含めると、とんでもない危険物が存在しています。



勿論、安全には細心・最新の装備が施されており、防油堤、オイルフェンス等の流出防止策から火災時の消火、類焼防止(高さ20mに及ぶ水噴霧壁他)策、地震時の機器の自動停止装置、他万全の対応が図られているそうです。

また、精製工程での排出物の周辺環境汚染に対しても二酸化炭素ガス、硫黄分の除去等に世界トップクラスの装置を施しているそうです。

施設の説明をお聞きし、周辺への安全や環境維持には最善の努力がなされているようで安心しました。

横浜地方気象台

「港の見える丘公園」のほぼ隣に位置するも意外と知られていない施設が横浜地方気象台です。建物は昭和初期を感じる文化財級の建物で、写真を取りに来る人も多いそうです。耐震性は理論上完璧に補強済みだそうです。

横浜地方気象台は32名の職員がいて、24時間体制で県内に設置されている気象観測所の観測結果や気象庁から送られるデータを基に、神奈川県全域の天気予報や、気象に関する注意報・警報・特別警報(大雨・大雪・暴風・暴風雪・波浪・高潮等)を一定の基準に基づき担当の気象予報官が市町村毎に発表しているそうです。これ以外に竜巻注意情報、土砂災害注意情報があるのですが、これらは中々発生要件が複雑で予報が

難しいそうです。

圧巻なのは予報室に広がる、昨年打ち上げた気象静止衛星「ひまわり 8 号」から 2 分 30 秒毎に 1 回送られる鮮明な日本上空のカラー画像で、これで予報精度は著しく向上したそうです。

地震については、気象庁が各区に設置の地震計の他、県や市が設置のもの、地震協会が設置のもの 3 種のデータを気象庁のスーパーコンピューターが一瞬に解析し地震情報として発表しているそうです。

全般に気象関係も膨大な量のデータをコンピューターが解析することで現在の精度を築いている事を痛感しました。その中で、いくつもの画面をジィ〜と見ながら腕を組んで考えている、今日の担当気象予報官の後姿が印象的でした。



神奈川県警本部

中区海岸通りの横浜港に面した敷地に 19 階建て豪華建物の県警本部です。屋上にはヘリポートもあり、空から、海から、陸からの三方向からのアクセスが可能に造られているそうです。

見学は一般の方が見学できる「見学コース」での視察となりましたが、「交通管制センター」と「通信指令室」は圧巻でした。交通管制センターは県全域の道路網が幅 15 m、高さ 6m 位の大画面で映し出されていて、主要交差点の混雑状況や主要道路の車の流れ状況が道路の色で識別できるようになっています。状況により信号の点滅時間もここで変えられるそうです。同時に交差点に設置のカメラからの映像も横に設置された 40 個位のモニターテレビ画面でリアルタイムで見ることができるようになっていました。

通信指令室は 110 番通報の受信センターですが、こちらにも交通管制センターに引けを取らない大画面が壁面一面に映し出されており、県全域の地図上に現在配置されている全パトカーと白バイが走行向きまで分かるよう表示されています。この画面に向かって約 30 席のオペレーター用デスクが並び 110 番通報を受けています。訪問時の午後 4 時頃は通報が少ない時間帯とのことで、半分ぐらいのデスクしか人員は配置されていませんでしたが夜遅くなるほど通報は増すそうで、夜はフル配置だそうです。内容の緊急度により対応オペレーターはデスクに掲げられたランプの色を白、黄色、赤と変え、後部に控えている担当に応援を求めていくそうです。24 時間市民の安全を見守るシステムがよくわかりました。

